

ふれあいの里グループホームほっ虹
(別紙4-1)

自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0191100353		
法人名	TNふれあいケアサービス株式会社		
事業所名	ふれあいの里グループホームほっ虹		
所在地	千歳市北光5丁目4番3号		
自己評価作成日	2025/2/5	評価結果市町村受理日	2025/3/21

※事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度の公表センターページで閲覧してください。

基本情報リンク先URL	https://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/01/index.php?action=kouhyou_detail_022_kan=true&JigyosyoCd=0191100353-00&ServiceCd=320&Type=search
-------------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	株式会社 サンシャイン
所在地	札幌市中央区北5条西6丁目第2道通ビル9F
訪問調査日	令和7年3月7日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

自然と調和した明るく陽のさすホームで一つ屋根の下に住む家族として楽しく安全に暮らしていけるようにスタッフ一同努めています。介護と医療の連携を大切に、終の棲家としてご本人ご家族が安心出来るように密に医療との関係性も大事にしています。また、職員は高校生のアルバイトや、経験豊富な高齢職員、インドネシアからの特定技能実習生含め様々な得意分野を活かし日々楽しく業務にあたっています。ホームでは、家庭菜園や、花壇を整備し充実させ入居者様と一緒に育てる、愛でる、食するといった皆で楽しめる支援を行っています。また、春は、複数班でお花見や、夏季シーズンはキャンプ場をお借りしてBBQ、広い敷地内で外ランチ、スイカ割り、夏野菜の収穫祭、近くのジェラート店や、牧場へ出かけ、秋には鮭の遡上を見学等アクティビティも重視しております。また日常の中で、時にはデリバリーを行ったり、フリー食【皆で作る自由献立】を楽しんだりお誕生日の際には必ず、スタッフ手作りのケーキでお祝い、季節行事はもちろんの事、スタッフにも色々立案してもらい皆で楽しめるホーム作りを行っています。尚、施設内は毎日清掃、消毒を行い感染症予防も徹底して行われています。施設は防犯設備も整っております。そして、窓ガラスにはUVカットが施されています。ユニットバスは可動式で重度化しても入浴が楽しめる造りとなっております。また看取り期に入られた入居者様の為に、寝たままシャワーSWitleBODYを導入しお身体に負担をかけないような介護支援を行っております。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

千歳市のJR長都駅から徒歩15分ほどの住宅地にある、2階建て2ユニットのグループホームである。周辺には市民病院や複数の学校があり、バス停からは徒歩4分ほどである。近くに遊歩道のような森があり、散歩を楽しむことができる。約2年前に新設された事業所で、明るく清潔である。食堂と居間を中心に居室が配置され、広い事務室もある。トイレや浴室など全体的にバリアフリーの設備が整っている。地域交流の面では、事業所の庭から近くの保育園児に手を振ったり、高校生の職業実習を受け入れるなどの交流をしている。行政との関係では、地域包括支援センターの紹介で管理者が市内の他のグループホームに出向いて事例紹介をするなどの連携をしている。家族意見の反映については、意見を参考に利用者の歩行訓練を強化した例がある。馴染みの関係継続に関して利用者が好むファストフードやショッピングセンターのフードコートでの外食を行っている。医療や看取りの支援は、受診時の情報を記録やホワイトボードで共有するとともに、比較的多くの看取りを経験して体制を整えている。食事は、関連会社より献立と食材が提供されるが、月に1回、自由献立の日を設定して希望にそったメニューを楽しんでいる。良好な環境と安定した支援のもと、安心して過ごすことのできるグループホームである。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓該当するものに○印		項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、活き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価及び外部評価結果

自己評価	外部評価	項 目	自己評価(1F)	外部評価(事業所全体)	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅰ.理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	全体会議や日頃のディスカッションで共有し、実践されている。	3項目からなる基本理念の中に「地域の方と利用者様の架け橋となり～」という文言があり、地域密着型サービスの意義を踏まえている。理念を事務所に掲げて周知し、職員は理念を理解している。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	挨拶、声掛け等日々の交流はできている。除雪も一緒に行ったり、隣の保育園園長先生にはご挨拶等。隣の集合住宅の住民の方とも交流はできている。また、施設敷地内でイベントの際には事前にご挨拶に伺っている。	散歩の際に住民と挨拶を交わしたり、利用者が事業所で畑仕事をする際に近くの保育園児に手を振っている。地元のキッチンカーの訪問があり、高校生の職業実習を受け入れている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	近くの高校生も短時間アルバイトをしてきて認知症の理解を得ている。現在高校生アルバイト3名起用。今年1月には特別支援学校の生徒さんが4日間実習にこられている。		
4	3	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	積極的意見交換により充分生かされている。	2か月ごとに開催し、地域包括支援センターや薬局、複数の家族の参加があるが、町内会関係者の参加は得られていない。看取り以外の計画的なテーマの設定は少ない。今後は参加できない家族の意見も得て会議に取り上げる予定である。	町内会関係者の参加が得られるよう、継続的な働きかけを期待したい。また、年間を通して計画的にテーマを設定し、簡単な資料も用意して話し合うことを期待したい。
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	高齢支援課に事故の報告を行ったり、申請等で直接対面し会話をしている。	運営推進会議で地域包括支援センターの参加を得ている。地域包括支援センターの紹介で管理者が市内の他のグループホームに出向き、事例紹介をしたこともある。市役所には困難事例などの相談を行っている。	
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	研修や委員会を通じて全職員に周知してもらっている。	身体拘束を行っておらず、3か月ごとの委員会と年2回の勉強会を行っている。今後は身体拘束マニュアルをすぐ見られる場所に整備し、勉強会で11項目の禁止行為も確認する予定である。玄関は夜間のみ施錠し、日中は自由に出入りができる。玄関に面して事務所があり、見守りがしやすい。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	研修、委員会等を通じて徹底している。		

ふれあいの里グループホームほっ虹

自己評価	外部評価	項目	自己評価(1F)	外部評価(事業所全体)	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性に関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	e-ラーニング等研修を通じて理解活用されている。日頃の職員間の情報共有等で支援に活用している。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時、全て説明している。		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	運営推進会議等で反映している。玄関に意見BOXも設置している。	運営推進会議や介護計画の説明時に家族の意見や要望を聞き、申し送り時に共有している。意見をもとに利用者の歩行訓練を強化した例がある。毎月「ほっ虹たより」を作成し、年1回は利用者ごとに作った便りを家族に提供している。	
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	日頃から意見交換されており反映されている。	1～2か月に1回全体会議を行い、職員が活発に意見交換している。年1回、管理者と職員の個別面談を行い、必要時にも面談している。職員は食材や備品管理、行事の企画、口腔ケア加算手続きなどを分担し、運営に参加している。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	職員の家庭事情を理解し考慮したシフト作成を心かけている。また非常勤から正職員へ、正職員から役職者へというステップアップ方式をもうけている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	e-ラーニング等研修を通じて取り組まれている。資格支援制度も設けている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	他事業所へのヘルプに行くことで交流する機会がある。		

自己評価	外部評価	項 目	自己評価(1F)	外部評価(事業所全体)	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	本人や家族とのコミュニケーションで理解を深める努力をしている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	面会時、来訪時に家族様と会話をしている。ご家族の家庭相談も非常に多く耳を傾けている、また、ご本人の習慣等伺い、良き関係づくりに努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	管理者、計画作成と協力し努めている。常に情報共有をしている。		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	日頃の声掛けや、軽作業を一緒にすることで築けている。		
19		○本人を共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	面会等の際色々な話を聞き関係構築に努めている。		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	短時間ではあるが家族以外の面会も可能となりできる限り支援している。	5名ほどの方に友人や親戚が来訪しており、知人から手紙が来る方もいる。馴染みの理美容に通う方が半分ほどおり、事業所や家族が送迎している。ファストフード店やショッピングセンターのフードコートでの食事もしみになっている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	レクリエーション等皆で楽しめる時間を作り支援できている。		

自己評価	外部評価	項 目	自己評価(1F)	外部評価(事業所全体)	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	家族や友人等との関係を断ち切らないように努めている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	意思疎通が可能な場合は希望を聞きながら職員間で検討している。	半分ほどの方が思いや意向を言葉で表現でき、難しい方も表情や過去の経験から把握している。フェイスシートに趣味・嗜好を記載しており、趣味・嗜好をより詳しく備考欄等に記載する方針としている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	本人や家族からの話を伺い把握するように努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	職員間、役職ふくめ情報交換し共有している。		
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	職員が日頃より意見交換し計画作成も交え話し合い作成している。	3か月ごとにモニタリングを行い、介護計画を3～6か月で更新している。家族の意見をさらに計画に反映していく意向としている。タブレット端末で介護記録を作成しており、目標項目に該当する利用者の変化等を該当箇所に記載している。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	引継ぎを徹底する等し共有、実践している。特に病変特変急変事項、日常特変等記録に残し情報共有している。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	家族や入居者のニーズに対応しサービスの多機能化に取り組んでいる。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	入居者の心身の状態により出来る範囲で視線に努めている。		
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	深夜、日中問わず対応可能な支援が得られている。助言、指導を頂いている	全利用者が協力医療機関による2週に1回の往診を受けている。内科以外を受診する場合は家族または事業所で送迎している。受診内容を往診分は「健康管理記録」、通院分は「医療対応報告書」に記載し共有している。	

ふれあいの里グループホームほっ虹

自己評価	外部評価	項 目	自己評価(1F)	外部評価(事業所全体)	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	定期的往診時に相談や突発的事案の際は相談し対応を頂いている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている	医療関係とは連携を密にしている。		
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	重度化した場合、終末期に関しては家族、職員とよく話し合い支援に取り組んでいる。看取り希望のご家族様には看取りの説明、看取り加算の説明を実施し同意を頂いている。	利用開始時に「入居者様が重度化した場合の対応に係る指針」を説明し、同意を得ている。開設後の2年間で4名ほどの看取りを行い、職員は経験を積んでいる。看取りの研修も実施している。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	急変時事故時については初期対応が全職員が対応できるようになっている。		
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	訓練をおこなっている。マニュアルを整備し周知させている。BCP研修も行っている。	年2回、夜間の火災や地震を想定した避難訓練を実施しているが消防の直接指導や住民の参加は得ていない。職員の救急救命訓練は未実施である。地震発生時のケア場面別の対応の話し合いもまだ行っていない。	①避難訓練に地域の方の参加を得るための継続的な働きかけ、②防災会社への訓練での助言を依頼、③職員の定期的な救急救命訓練の受講、④地震発生時のケア場面別の対応の確認、以上4点の取り組みを期待したい。
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	ご本人の人柄等考慮し工夫した声掛けを行っている。	呼びかけは「さん」付けを基本に、家族や本人の意向で愛称で呼ぶこともある。eラーニングで接遇研修を実施し、申し送りも事務所でやっている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	声掛け見守り等をし支援している。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	見守り声掛け等をしご本人にベストな支援に努めている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	毎朝の整容等で支援している。		

ふれあいの里グループホームほっ虹

自己評価	外部評価	項目	自己評価(1F)	外部評価(事業所全体)	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	身体的等に問題がない利用者には出来るだけ準備軽作業などお手伝いをしてもらえよう支援している。	法人の献立を基本に、行事食は少し豪華にしたり月1回自由献立の日を設けている。外食で回転寿司や居酒屋のランチに出かけている。誕生日は職員手作りのケーキやババロアでお祝いしている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	毎食、定時の水分量等の記録を全て残し、把握し支援している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	清潔を保てるように支援している。本人に合った歯ブラシを使用、本人に合った口腔洗浄液等。		
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	声掛けや排泄記録をもとに自立支援を行っている。	全員の排泄状況をタブレット端末で記録し、二人介助での対応も行いながら日中はトイレでの排泄を支援している。夜間のみベッド上で排泄用品を交換する方もいる。利用者や時間帯に応じて、適切な排泄用品を使用している。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	記録をもとに排便コントロールを行っている。また薬だけではなく食事の形態や水分量でも便秘予防に努めている。		
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	体調を見ながら入浴支援を行っている。また失禁の場合は都度入浴、シャワー浴を行う。尚体調不良の際は入浴を中止している。また、終末期の方には寝たままシャワーを導入した。	毎日入浴が可能で、午前中を中心に一人週2～3回の入浴を支援している。入浴剤や香りを楽しめるシャンプー、保湿に配慮したボディーソープなどを使用している。好みの湯加減で、職員と昔話をしながらゆっくり入浴している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	まめなバイタル測定や声掛けで状況を把握している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	記録やご本人の状態を観察し服薬支援をしている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	好みを把握し嗜好品やレク等を提供している。		

ふれあいの里グループホームほっ虹

自己評価	外部評価	項目	自己評価(1F)	外部評価(事業所全体)	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	可能な入居者様は外出や外食支援を行って居る。身体的に厳しい方でも福祉車両を使用し可能な範囲で外に出かけられている。	普段は事業所周辺を散歩したり、近くの公園に出かけている。敷地内の花壇を見たり畑で野菜を収穫することもある。外出行事でノーザンホースパークや牧場、千歳神社のお祭りなど積極的に出かけている。市民病院の公園や近くの桜並木で花見を楽しんでいる。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	認知症状の進行により支援の工夫を行っている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	可能な方には支援している。		
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	整理整頓、清掃を完全に行い清潔を心掛け季節感のある空間作りを心かけている。	居間と食堂は明るく開放感がある造りで、壁には職員手作りの季節感のある装飾が施されている。台所の対面式カウンターテーブルは、利用者が立ったまま職員と話をしたり調理の様子を見られるように、握りやすいお洒落な穴があいている。浴室には、介助方法に合わせて左右に移動可能な浴槽を整備している。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	テレビ、雑誌、パズル、塗り絵等提供できる備えがある。		
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居の際ご家族に持ちこんで頂いたりし過ごしやすい工夫をしている。	入り口に、本人の好きな動物写真を入れた表札がかけてある。ベッドとクローゼットが備え付けられた部屋に、使い慣れたチェストや椅子、鏡台などを持ち込んでいる。家族の写真などを飾り、落ち着いて過ごせるように工夫している。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	本人との対話や、観察、職員間の情報交換と共有のを元に環境作りに努めている。		

ふれあいの里グループホームほっ虹
(別紙4-1)

自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0191100353		
法人名	TNふれあいケアサービス株式会社		
事業所名	ふれあいの里グループホームほっ虹		
所在地	千歳市北光5丁目4番3号		
自己評価作成日	2025/2/5	評価結果市町村受理日	2025/3/21

※事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度の公表センターページで閲覧してください。

基本情報リンク先URL	https://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/01/index.php?action=kouhyou_detail_022_kani=true&JigyosyoCd=0191100353-00&ServiceCd=320&Type=search
-------------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	株式会社 サンシャイン
所在地	札幌市中央区北5条西6丁目第2道通ビル9F
訪問調査日	令和7年3月7日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

自然と調和した明るく陽のさすホームで一つ屋根の下に住む家族として楽しく安全に暮らしていけるようにスタッフ一同努めています。介護と医療の連携を大切に、終の棲家としてご本人ご家族が安心出来るように密に医療との関係性も大事にしています。また、職員は高校生のアルバイトや、経験豊富な高齢職員、インドネシアからの特定技能実習生含め様々な得意分野を活かし日々楽しく業務にあたっています。ホームでは、家庭菜園や、花壇を整備し充実させ入居者様と一緒に育てる、愛でる、食するといった皆で楽しめる支援を行っています。また、春は、複数班でお花見や、夏季シーズンはキャンプ場をお借りしてBBQ、広い敷地内で外ランチ、スイカ割り、夏野菜の収穫祭、近くのジェラート店や、牧場へ出かけ、秋には鮭の遡上を見学等アクティビティも重視しております。また日常の中で、時にはデリバリーを行ったり、フリー食【皆で作る自由献立】を楽しんだりお誕生日の際には必ず、スタッフ手作りのケーキでお祝い、季節行事はもちろんの事、スタッフにも色々立案してもらい皆で楽しめるホーム作りを行っています。尚、施設内は毎日清掃、消毒を行い感染症予防も徹底して行われています。施設は防犯設備も整っております。そして、窓ガラスにはUVカットが施されています。ユニットバスは可動式で重度化しても入浴が楽しめる造りとなっております。また看取り期に入られた入居者様の為に、寝たままシャワーSWitleBODYを導入しお身体に負担をかけないような介護支援を行っております。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓該当するものに○印		項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、活き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価及び外部評価結果

自己評価	外部評価	項 目	自己評価(2F)	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
I.理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	全体会議や日頃のディスカッションで共有し、実践されている。		
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	挨拶、声掛け等日々の交流はできている。除雪も一緒に行ったり、隣の保育園園長先生にはご挨拶等。隣の集合住宅の住民の方とも交流はできている。また、施設敷地内でイベントの際には事前にご挨拶に伺っている。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	近くの高校生も短時間アルバイトをしてくれて認知症の理解を得ている。現在高校生アルバイト3名起用。今年1月には特別支援学校の生徒さんが4日間実習にこられている。		
4	3	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	積極的意見交換により充分生かされている。		
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	高齢支援課に事故の報告を行ったり、申請等で直接対面し会話をしている。		
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	研修や委員会を通じて全職員に周知してもらっている。		
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	研修、委員会等を通じて徹底している。		

ふれあいの里グループホームほっ虹

自己評価	外部評価	項目	自己評価(2F)	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性に関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	e-ラーニング等研修を通じて理解活用されている。日頃の職員間の情報共有等で支援に活用している。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時、全て説明している。		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	運営推進会議等で反映している。玄関に意見BOXも設置している。		
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	日頃から意見交換されており反映されている。		
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	職員の家庭事情を理解し考慮したシフト作成を心かけている。また非常勤から正職員へ、正職員から役職者へというステップアップ方式をもうけている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	e-ラーニング等研修を通じて取り組まれている。資格支援制度も設けている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	他事業所へのヘルプに行くことで交流する機会がある。		

自己評価	外部評価	項 目	自己評価(2F)	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	本人や家族とのコミュニケーションで理解を深める努力をしている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	面会時、来訪時に家族様と会話をしている。ご家族の家庭相談も非常に多く耳を傾けている、また、ご本人の習慣等伺い、良き関係づくりに努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	管理者、計画作成と協力し努めている。常に情報共有をしている。		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	日頃の声掛けや、軽作業を一緒にすることで築けている。		
19		○本人を共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	面会等の際色々な話を聞き関係構築に努めている。		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	短時間ではあるが家族以外の面会も可能となりできる限り支援している。		
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	レクリエーション等皆で楽しめる時間を作り支援できている。		

自己評価	外部評価	項 目	自己評価(2F)	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	家族や友人等との関係を断ち切らないように努めている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	意思疎通が可能な場合は希望を聞きながら職員間で検討している。		
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	本人や家族からの話を伺い把握するように努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	職員間、役職ふくめ情報交換し共有している。		
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	職員が日頃より意見交換し計画作成も交え話し合い作成している。		
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	引継ぎを徹底する等し共有、実践している。特に病変特変急変事項、日常特変等記録に残し情報共有している。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	家族や入居者のニーズに対応しサービスの多機能化に取り組んでいる。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	入居者の心身の状態により出来る範囲で視線に努めている。		
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	深夜、日中問わず対応可能な支援が得られている。助言、指導を頂いている		

ふれあいの里グループホームほっ虹

自己評価	外部評価	項 目	自己評価(2F)	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	定期的往診時に相談や突発的事案の際は相談し対応を頂いている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている	医療関係とは連携を密にしている。		
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	重度化した場合、終末期に関しては家族、職員とよく話し合い支援に取り組んでいる。看取り希望のご家族様には看取りの説明、看取り加算の説明を実施し同意を頂いている。		
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	急変時事故時については初期対応が全職員が対応できるようになっている。		
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	訓練をおこなっている。マニュアルを整備し周知させている。BCP研修も行っている。		
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	ご本人の人柄等考慮し工夫した声掛けを行っている。		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	声掛け見守り等をし支援している。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	見守り声掛け等をしご本人にベストな支援に努めている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	毎朝の整容等で支援している。		

ふれあいの里グループホームほっ虹

自己評価	外部評価	項 目	自己評価(2F)	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	身体的等に問題がない利用者には出来るだけ準備軽作業などお手伝いをしてもらえるよう支援している。		
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	毎食、定時の水分量等の記録を全て残し、把握し支援している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	清潔を保てるように支援している。本人に合った歯ブラシを使用、本人に合った口腔洗浄液等。		
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	声掛けや排泄記録をもとに自立支援を行っている。		
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	記録をもとに排便コントロールを行っている。また薬だけではなく食事の形態や水分量でも便秘予防に努めている。		
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	体調を見ながら入浴支援を行っている。また失禁の場合は都度入浴、シャワー浴を行う。尚体調不良の際は入浴を中止している。また、終末期の方には寝たままシャワーを導入した。		
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	まめなバイタル測定や声掛けで状況を把握している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	記録やご本人の状態を観察し服薬支援をしている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	好みを把握し嗜好品やレク等を提供している。		

ふれあいの里グループホームほっ虹

自己評価	外部評価	項 目	自己評価(2F)	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	可能な入居者様は外出や外食支援を行って居る。身体的に厳しい方でも福祉車両を使用し可能な範囲で外に出かけられている。		
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	認知症状の進行により支援の工夫を行っている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	可能な方には支援している。		
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	整理整頓、清掃を完全に行い清潔を心掛け季節感のある空間作りを心かけている。		
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	テレビ、雑誌、パズル、塗り絵等提供できる備えがある。		
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居の際ご家族に持ちこんで頂いたりし過ごしやすい工夫をしている。		
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	本人との対話や、観察、職員間の情報交換と共有のを元に環境作りに努めている。		